

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月12日

【四半期会計期間】 第12期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

【会社名】 株式会社デジタルハーツ

【英訳名】 DIGITAL Hearts Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 CEO 宮澤 栄一

【本店の所在の場所】 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

【電話番号】 03(3379)2053(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 財務経理本部長 風間 啓哉

【最寄りの連絡場所】 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号

【電話番号】 03(3379)2053(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 財務経理本部長 風間 啓哉

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	会計期間	第11期 第3四半期 連結累計期間	第12期 第3四半期 連結累計期間	第11期
		自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高	(千円)	4,171,302	4,931,423	5,386,259
経常利益	(千円)	732,660	706,076	806,903
四半期(当期)純利益	(千円)	384,208	392,487	440,771
四半期包括利益又は包括利益	(千円)	374,724	407,996	434,389
純資産額	(千円)	2,187,645	2,581,768	2,266,492
総資産額	(千円)	2,972,378	4,475,746	3,159,896
1株当たり四半期(当期) 純利益金額	(円)	33.17	33.83	38.04
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)	32.19	32.88	36.93
自己資本比率	(%)	73.3	57.0	71.0

回次	会計期間	第11期 第3四半期 連結会計期間	第12期 第3四半期 連結会計期間
		自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	12.06	16.88

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 当社は、平成24年7月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。また、平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、第11期の期首に株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期(当期)純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額を算定しております。
4. 第12期第3四半期連結累計期間末における総資産の大幅な増加は、Aetas株式会社の株式取得により、同社を連結の範囲に含めたことによるものであります。

2 【事業の内容】

当社グループは、当第3四半期連結累計期間におきまして、Aetas株式会社を連結子会社化したことに伴い「メディア事業」を開始致しました。

そのため、当社グループの報告セグメントを従来の「デバッグ事業」に当該「メディア事業」を加えた2つへ変更するとともに、報告セグメントに含まれない事業セグメントを「その他」として区分しています。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

（メディア事業）

新規取得：Aetas株式会社(特定子会社)

（その他）

新規設立：株式会社デジタルハーツ・ビジュアル(特定子会社)

この結果、平成24年12月31日現在では、当社グループは、当社及び連結子会社6社の計7社で構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、Aetas株式会社の全株式を取得し、同社を連結子会社としたことに伴い、当社グループにおける事業リスクを検討した結果、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した「第一部 企業情報 第2 事業の状況 4 事業等のリスク」に以下の記載内容を追加しております。

なお、以下の見出しに付された項目番号は、前連結会計年度の有価証券報告書における「第一部 企業情報 第2 事業の状況 4 事業等のリスク」の項目番号に対応させたものです。

(13) 企業買収による事業拡大について

当社グループは、事業規模の拡大及び多様な収益源の確保を目的として、ユーザーデバッグサービスの提供事業を軸としつつ幅広いビジネス展開を積極的に行う考えであり、そのための有効な手段の一つとして企業買収を活用していく方針であります。企業買収においては、対象となる企業の財務内容、契約関係及び事業の状況等について事前にデューデリジェンスを実施し、可能な限りリスクの低減に努めております。

しかしながら、企業買収後に、事業環境に急激な変化が生じた場合やその他予期し得ない理由により当初の計画通りに事業が進展しない場合には、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

(14) 著作権に関するリスクについて

当社グループは、運営するメディアにおいて多くの記事、図版等のコンテンツを掲載しており、それらのコンテンツが第三者の権利を侵害しないよう厳格な管理を実施しております。

しかしながら、何らかの理由により、それらのコンテンツが第三者の権利を侵害した場合には、当社グループへの損害賠償責任の追及や社会的信用の失墜等により、当社グループの経営成績及び財政状態に影響を及ぼす可能性があります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

2 【経営上の重要な契約等】

(Aetas株式会社の子会社化に関する株式譲渡契約締結)

当社は、平成24年11月21日の取締役会において、Aetas株式会社の全株式を取得することを決議し、平成24年11月29日に株式譲渡契約を締結致しました。これにより、Aetas株式会社は、平成24年11月30日付けで当社の完全子会社となっております。詳細は、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項 (企業結合等関係)」に記載しております。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災からの復興需要を背景に一部で緩やかな景気回復の兆しが見られたものの、欧州の債務問題や中国の成長鈍化に伴う世界的な景気の下振れ懸念等があり、先行きが不透明な状況で推移致しました。当社グループの関連市場であるソフトウェア、コンテンツ市場では、多様な消費者ニーズに対応するため、これまで以上に完成度の高いソフトウェア等をより低コストでスピーディに開発することが求められるようになりました。このため、メーカーや開発会社は人件費の削減に加え、高品質な製品の開発に経営資源を集中することを目的として、デバッグ工程をアウトソーシングする傾向にあり、この動きは引き続き拡大していくものと見込んでおります。

このような経営環境において、当社グループでは「Made in JapanからChecked by Japanへ」というスローガンのもと、国内外で増加傾向にある消費者的視点からのユーザーデバッグ需要と多様化する顧客ニーズに対応したサービス展開に注力して参りました。

その取り組みとして、デバッグ事業においては家庭用ゲーム及びソーシャルゲーム領域の既存顧客に対し、部署間の連携を図った営業活動を推進するとともに、ソーシャルゲーム向けデバッグ需要の拡大に伴い、平成24年12月には札幌及び韓国にLab. (ラボ)を増設し受注体制を強化するなど、高品質できめ細やかなサービスの提供に努めて参りました。

また、より付加価値の高いサービス提供の観点から、当社グループの高度な不具合検出能力の証左ともいえる新サービス「ソフトウェア不具合検証保証サービス」の提供を開始し、顧客企業に対してより一層の安心を提供することで、さらなる信頼の獲得に取り組んで参りました。

さらに、平成24年11月に公表致しました「Aetas株式会社の株式の取得（子会社化）に関するお知らせ」のとおり、日本最大級の総合ゲームサイト「4Gamer.net」を運営しているAetas株式会社の全株式を取得し子会社化致しました。これにより、同社のゲームユーザーに対する強力な情報配信力と、ゲームのコアユーザーを含む7,000名を超える登録テスターや70万件を超える当社のデバッグノウハウとを融合させることで、今後の当社グループの新たな事業展開の基盤を整備して参りました。

以上の結果、デバッグ事業の業績が堅調に推移し、当第3四半期連結累計期間の売上高は、4,931,423千円(前年同四半期比18.2%増)となりました。

一方で、事業拡大に備えた新規事業への積極的な投資を行った結果、営業利益は703,580千円(前年同四半期比7.1%減)、経常利益は706,076千円(前年同四半期比3.6%減)、四半期純利益は392,487千円(前年同四半期比2.2%増)となりました。

なお、当第3四半期連結累計期間からAetas株式会社を連結の範囲に含めたことにより、報告セグメントを、従来の「デバッグ事業」に「メディア事業」を加えた2つに変更するとともに、報告セグメントに含まれない事業セグメントを「その他」として区分しております。

報告セグメントの概要については、「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項 (セグメント情報等) セグメント情報」に記載のとおりであります。

また、セグメント別の状況につきましては、以下のとおりであります。

デバッグ事業

() コンシューマゲームリレーション

日本国内のコンシューマゲーム市場におきましては、新型ハード「Wii U™」が発売されたものの、市場全体における販売タイトル数は減少し、当第3四半期連結累計期間のゲームソフトの販売市場は前年同四半期比95.7%(平成24年12月末時点、エンターブレイン調べ)となりました。

このような状況のもと、当社グループでは前連結会計年度に取引拡大を実現した大口顧客企業各社から

の安定受注を図るとともに、オンラインゲームやアーケードゲーム等のリピート率の高い案件受注の獲得に向けた営業活動をより一層推進して参りました。

また、連結子会社のDIGITAL Hearts USA Inc.では、デバッグ人員の拡充及びセキュリティ環境の強化を目的として、オフィスを拡張移転するなど強固な受注体制を確立するとともに、積極的な営業活動にも注力致しました。

その結果、前年同四半期と比べ、商戦期が集中しないオンラインゲームやアーケードゲームの受注割合が増加し受注が安定的に推移したため、当第3四半期連結累計期間のコンシューマゲームリレーションの売上高は2,054,291千円(前年同四半期比5.9%減)となりました。

()デジタルソリューションリレーション

モバイルコンテンツビジネスを取り巻く環境は、成長著しいソーシャルゲーム市場において引き続き開発が活発化するとともに、スマートフォンやタブレットをはじめとする個人所有端末の業務利用が一層進んでおります。

このような状況のもと、ソーシャルゲームの開発においては、競争激化により開発期間の短期化が進むとともに品質の向上が求められる傾向にあり、開発企業各社からのデバッグ工程のアウトソーシングが拡大したため、受注が好調に推移致しました。

また、従来からコンシューマゲーム分野で取引関係のある顧客企業各社が本格的にソーシャルゲーム領域に参入していることから、当社グループでは、コンシューマゲームリレーションで培った顧客基盤を活かした受注活動に注力し、既存顧客からのアウトソーシング比率の上昇に努め、プロジェクトごとの売上拡大を図って参りました。

さらに、スマートフォンやタブレットを社内システムと連携させて導入する企業が増加傾向にあるため、前連結会計年度より本格的に取り組んでいるビジネスアプリをはじめとしたシステム検証の実績を活かし、新規顧客の開拓にも注力して参りました。

その結果、当第3四半期連結累計期間のデジタルソリューションリレーションの売上高は1,357,797千円(前年同四半期比59.7%増)と前年同四半期を大幅に上回りました。

()アミューズメントリレーション

日本国内のパチンコ市場における遊技機メーカー各社では、新内規対応機の登場によりゲーム性を高める等の演出の多様化が進むとともに、パチスロ市場においても市場の拡大に伴い、新機種の開発が活発化致しました。

このような状況のもと、当社グループでは、開発の上流工程と連動した効率的なデバッグ体制の強化と、デバッグに関連するサービスの拡充を推進することにより、顧客ニーズを捉えたサービス提供に注力して参りました。

その結果、既存顧客からの受注が堅調に推移し、当第3四半期連結累計期間のアミューズメントリレーションの売上高は1,248,512千円(前年同四半期比10.8%増)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のデバッグ事業の売上高は4,660,601千円(前年同四半期比12.0%増)、営業利益は1,277,256千円(前年同四半期比1.3%増)となりました。

メディア事業

平成24年11月にAetas株式会社を子会社化したことに伴い、日本最大級の総合ゲームサイト「4Gamer.net」の運営を通じたメディア事業を、当第3四半期連結累計期間より事業展開しております。

当第3四半期連結累計期間の売上高は55,301千円、営業利益は18,387千円となりました。

その他

当社グループでは、多様な収益源を確保することにより安定的かつ持続的な事業の成長を図るべく、新しいマーケットへの参入や既存事業のノウハウを活用した新規事業の開発に積極的に取り組んでおります。

ゲームの制作支援を行う開発アウトソーシング事業では、連結子会社である株式会社G & Dを通じてゲームビジネスのトータルアウトソーシングニーズに対応するため、海外子会社とのグループネットワークを活かしたサービスの提供に努めて参りました。

3Dコンテンツ制作事業では、平成24年5月に連結子会社として設立した株式会社デジタルハーツ・ビジュアルを軸とし、海外の映像関連業界を中心とした顧客企業に対する営業活動に注力して参りました。

Fuguai.com事業におきましては、デバッグ事業との関連性を最大限に活かしたサービス開発に努めるとともに、認知度の向上及び収益化に向けた活動にも注力し、平成24年9月には当社として初めて国の行政機関である消費者庁の案件を落札致しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のその他の事業の売上高は215,520千円、営業損失は86,392千円となりました。

(2) 財政状態の分析

(資産)

流動資産の残高は3,207,828千円となり、前連結会計年度末における流動資産2,451,501千円に対し、756,326千円の増加(前期比30.9%増)となりました。

これは、主として受取手形及び売掛金が475,976千円増加したこと並びに現金及び預金が220,146千円増加したことによるものであります。

固定資産の残高は1,267,918千円となり、前連結会計年度末における固定資産708,394千円に対し、559,523千円の増加(前期比79.0%増)となりました。

これは、主としてのれんが522,122千円増加したことによるものであります。

(負債)

流動負債の残高は1,867,651千円となり、前連結会計年度末における流動負債862,450千円に対し、1,005,201千円の増加(前期比116.6%増)となりました。

これは、主として未払法人税等が120,134千円減少した一方で、短期借入金が1,000,000千円増加したことによるものであります。

固定負債の残高は26,327千円となり、前連結会計年度末における固定負債30,953千円に対し、4,626千円の減少(前期比14.9%減)となりました。

(純資産)

純資産の残高は2,581,768千円となり、前連結会計年度末における純資産2,266,492千円に対し、315,276千円の増加(前期比13.9%増)となりました。

これは、主として期末配当及び中間配当の実施に伴い利益剰余金が92,784千円減少した一方で、四半期純利益の計上により利益剰余金が392,487千円増加したことによるものであります。

(3) 従業員数

連結会社の状況

当社グループは、当第3四半期連結累計期間より、Aetas株式会社の全株式を取得し、同社を連結子会社としたことに伴い、新たに「メディア事業」を報告セグメントに加えております。変更の内容については「第4 経理の状況 1 四半期連結財務諸表 注記事項（セグメント情報等）セグメント情報」の「3. 報告セグメントの変更等に関する事項」に記載しております。

平成24年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
デバッグ事業	131 〔1,416〕
メディア事業	23 〔6〕
その他	22 〔12〕
全社(共通)	40 〔28〕
合計	216 〔1,462〕

- (注) 1. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員を記載しております。
2. 臨時従業員には常用のアルバイト及び派遣社員等を含んでおります。
3. 当第3四半期連結累計期間に、当社グループではデバッグ事業において業容の拡大に伴いデバッグ事業の臨時従業員が177名、全社(共通)の臨時従業員が20名増加しております。
4. 全社(共通)は、特定のセグメントに区分できない管理部門等の従業員であります。

提出会社の状況

平成24年12月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
デバッグ事業	123 〔1,395〕
その他	〔1〕
全社(共通)	39 〔22〕
合計	162 〔1,418〕

- (注) 1. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員を記載しております。
2. 臨時従業員には常用のアルバイト及び派遣社員等を含んでおります。
3. 当第3四半期累計期間に、当社ではデバッグ事業において業容の拡大に伴いデバッグ事業の臨時従業員が179名、全社(共通)の臨時従業員が16名増加しております。
4. 全社(共通)は、特定のセグメントに区分できない管理部門等の従業員であります。

(4) 生産、受注及び販売の状況

生産実績

事業の特性上、該当事項はありません。

受注実績

当社グループのデバッグ事業及びメディア事業は、受注から役務提供までの所要日数が短く、期中の受注高と販売実績とがほぼ対応するため、記載を省略しております。

販売実績

当第3四半期連結累計期間における販売実績は、次のとおりであります。

区分		当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	
		金額(千円)	前年同四半期比(%)
デバッグ 事業	コンシューマゲームリレーション	2,054,291	94.1
	デジタルソリューションリレーション	1,357,797	159.7
	アミューズメントリレーション	1,248,512	110.8
	小計	4,660,601	112.0
メディア事業		55,301	
その他		215,520	
合計		4,931,423	118.2

- (注) 1. セグメント間の取引については相殺消去しております。
 2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3. 当第3四半期連結累計期間より、Aetas株式会社の全株式を取得し、同社を連結子会社としたことに伴い、「メディア事業」を新たに報告セグメントに加えております。
 4. 前第3四半期連結累計期間及び当第3四半期連結累計期間の主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合については、当該割合が100分の10以上である相手先がないため記載を省略しております。

(5) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第3四半期連結累計期間に著しい変動があった設備は次のとおりであります。

提出会社

当社ではLab.(ラボ)を新設したことに伴い以下の設備を取得致しました。

事業所名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)			従業員数 (名)
			建物	工具、器具 及び備品	合計	
浅草Lab.(ラボ) (東京都台東区)	デバッグ事業	デバッグ ルーム	5,784	516	6,301	1 〔28〕
札幌第2 Lab.(ラボ) (北海道札幌市中央区)	デバッグ事業	デバッグ ルーム	13,689	1,262	14,951	1 〔 〕

- (注) 1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。
2. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員を記載しております。
3. 臨時従業員には常用のアルバイトを含んでおります。
4. 上記Lab.(ラボ)については建物を賃借しております(年間賃借料36,010千円)。

国内子会社

当社の連結子会社である株式会社G & Dでは、事業の本格稼働に伴い以下の設備を取得致しました。

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)		従業員数 (名)
			ソフトウェア	合計	
株式会社G & D (東京都新宿区)	その他	映像加工 ツール	4,666	4,666	〔2〕

- (注) 1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。
2. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員を記載しております。
3. 臨時従業員には常用のアルバイトを含んでおります。

当社はAetas株式会社の全株式取得に伴い、同社を連結子会社としております。この結果、以下の設備が増加しております。

会社名 (所在地)	セグメントの名称	設備の内容	帳簿価額(千円)				従業員数 (名)
			建物	工具、器具 及び備品	ソフト ウェア	合計	
Aetas株式会社 (東京都港区)	メディア事業	本社事務所 編集設備	4,313	2,649	62	7,025	23 〔6〕

- (注) 1. 上記金額には消費税等は含まれておりません。
2. 従業員数欄の〔外書〕は、臨時従業員の年間平均雇用人員を記載しております。
3. 臨時従業員には常用のアルバイトを含んでおります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	38,400,000
計	38,400,000

(注) 平成24年10月1日付けで株式分割に伴う定款変更が行われたことにより、発行可能株式総数は19,200,000株増加し、38,400,000株となっております。

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月12日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	11,601,000	11,601,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は100株であります。
計	11,601,000	11,601,000		

(注) 1. 完全議決権株式であり、権利内容に何ら制限のない当社における標準となる株式であります。
2. 提出日現在の発行数には、平成25年2月1日からこの四半期報告書提出日までの新株予約権の行使により発行された株式数は、含まれておりません。
3. 平成24年5月25日開催の取締役会決議により、平成24年7月1日を効力発生日として、1株を100株に分割するとともに単元株式数を100株とする単元株式制度を採用しております。
4. 平成24年8月3日開催の取締役会決議により、平成24年10月1日付けで1株を2株に株式分割致しました。これにより株式数は5,800,500株増加し、発行済株式総数は11,601,000株となっております。

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金 増減額 (千円)	資本金 残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年10月1日 (注)	5,800,500	11,601,000		272,981		232,981

(注) 平成24年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成24年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,800,000	58,000	株主としての権利内容に制限のない標準となる株式
単元未満株式	普通株式 500		
発行済株式総数	5,800,500		
総株主の議決権		58,000	

(注) 平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。なお、上記は分割前の株式数にて記載しております。

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,597,677	1,817,823
受取手形及び売掛金	763,994	1,239,971
たな卸資産	994	27,697
その他	89,687	126,006
貸倒引当金	852	3,671
流動資産合計	2,451,501	3,207,828
固定資産		
有形固定資産	207,978	265,299
無形固定資産		
のれん	-	522,122
その他	62,540	94,979
無形固定資産合計	62,540	617,101
投資その他の資産	437,875	385,516
固定資産合計	708,394	1,267,918
資産合計	3,159,896	4,475,746
負債の部		
流動負債		
短期借入金	-	1,000,000
未払費用	346,920	408,384
未払法人税等	275,780	155,646
賞与引当金	26,380	24,669
その他	213,367	278,951
流動負債合計	862,450	1,867,651
固定負債		
資産除去債務	3,060	3,860
その他	27,893	22,466
固定負債合計	30,953	26,327
負債合計	893,403	1,893,978
純資産の部		
株主資本		
資本金	272,949	272,981
資本剰余金	232,949	232,981
利益剰余金	1,741,048	2,040,752
株主資本合計	2,246,947	2,546,715
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,444	1,287
為替換算調整勘定	3,107	6,005
その他の包括利益累計額合計	4,552	4,717
少数株主持分	24,097	30,335
純資産合計	2,266,492	2,581,768
負債純資産合計	3,159,896	4,475,746

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	4,171,302	4,931,423
売上原価	2,620,112	3,243,365
売上総利益	1,551,190	1,688,057
販売費及び一般管理費	794,150	984,477
営業利益	757,040	703,580
営業外収益		
受取利息	1,768	154
受取配当金	-	863
助成金収入	4,440	5,243
その他	4,087	3,751
営業外収益合計	10,296	10,012
営業外費用		
支払利息	157	1,633
投資事業組合運用損	1,457	1,413
為替差損	11,988	4,359
債権売却損	733	-
営業保証金精算損	20,287	-
その他	52	110
営業外費用合計	34,676	7,516
経常利益	732,660	706,076
特別利益		
保険解約返戻金	-	22,183
特別利益合計	-	22,183
税金等調整前四半期純利益	732,660	728,259
法人税、住民税及び事業税	350,588	323,776
法人税等調整額	2,136	5,707
法人税等合計	348,451	329,483
少数株主損益調整前四半期純利益	384,208	398,775
少数株主利益	-	6,288
四半期純利益	384,208	392,487

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	384,208	398,775
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	194	156
為替換算調整勘定	9,289	9,063
その他の包括利益合計	9,484	9,220
四半期包括利益	374,724	407,996
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	375,121	401,757
少数株主に係る四半期包括利益	397	6,238

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間
(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

連結の範囲の重要な変更

第1四半期連結累計期間より、新たに設立した株式会社デジタルハーツ・ビジュアルを連結の範囲に含めております。

また、当第3四半期連結累計期間より、新たにAetas株式会社の全株式を取得し子会社化したため、連結の範囲に含めております。

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	59,574千円	77,173千円
のれんの償却額		6,290千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月23日 定時株主総会	普通株式	43,413	(注)750	平成23年3月31日	平成23年6月24日	利益剰余金

(注) 東京証券取引所市場第一部への市場変更に伴う記念配当250円を含んでおります。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	57,981	1,000	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金
平成24年11月2日 取締役会	普通株式	34,803	6	平成24年9月30日	平成24年12月6日	利益剰余金

(注) 当社は、平成24年7月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。また、平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	デバッグ 事業	メディア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,161,132		4,161,132	10,170	4,171,302		4,171,302
セグメント間の内部 売上高又は振替高							
計	4,161,132		4,161,132	10,170	4,171,302		4,171,302
セグメント利益又は 損失()	1,260,635		1,260,635	74,323	1,186,311	429,271	757,040

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、Fuguai.com事業及び3Dコンテンツ制作事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 429,271千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	デバッグ 事業	メディア 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	4,660,601	55,301	4,715,903	215,520	4,931,423		4,931,423
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,165		5,165		5,165	5,165	
計	4,665,767	55,301	4,721,068	215,520	4,936,588	5,165	4,931,423
セグメント利益又は 損失()	1,277,256	18,387	1,295,644	86,392	1,209,252	505,672	703,580

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、Fuguai.com事業、ゲームソフトウェア開発のアウトソーシング事業及び3Dコンテンツ制作事業等を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額 505,672千円は、主に報告セグメントに帰属していない一般管理費等の全社費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの資産に関する情報

当第3四半期連結累計期間より、Aetas株式会社の全株式を取得し、同社を連結子会社としたことに伴い、新たに「メディア事業」を報告セグメントに加えております。

この影響により、当第3四半期連結会計期間末において「メディア事業」のセグメント資産の金額は、前連結会計年度末に比べて、885,181千円増加しております。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(報告セグメントの追加)

当社グループは、従来「デバッグ事業」のみを報告セグメントとしておりましたが、「2. 報告セグメントごとの資産に関する情報」に記載のとおり、当第3四半期連結累計期間より、報告セグメントに「メディア事業」を加えるとともに、報告セグメントに含まれない事業セグメントを「その他」として区分しております。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

4. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「メディア事業」において、Aetas株式会社の株式取得により、同社を連結子会社としたことに伴い、のれんが発生しております。なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において522,122千円であります。

(企業結合等関係)

当第3四半期連結会計期間(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)

取得による企業結合

(1) 企業結合の概要

被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称 Aetas株式会社

事業の内容 PC・オンラインゲーム情報サイト「4gamer.net」等の企画・運営

企業結合を行った主な理由

被取得企業が有するゲームユーザーに対する強力な情報発信力と、当社のデバッグノウハウとの融合により、当社グループの新たな事業展開の基盤としていくため。

企業結合日

平成24年11月30日

企業結合の法的形式

現金を対価とする株式取得

結合後企業の名称

変更はありません。

取得した議決権比率

100.0%

取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が、現金を対価としてAetas株式会社の全株式を取得したためであります。

(2) 四半期連結累計期間に係る四半期連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

平成24年12月1日から平成24年12月31日まで

(3) 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価	現金及び預金	800,000千円
取得に直接要した費用	デューデリジェンス費用等	1,809千円
取得原価		801,809千円

(4) 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

発生したのれん

528,412千円

発生原因

買収評価時に見込んだ将来収益を反映させた投資額が、取得した資産及び引き受けた負債の純額を上回ったため、その差額をのれんとして認識しております。

償却方法及び償却期間

7年間にわたる均等償却

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	33円17銭	33円83銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	384,208	392,487
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	384,208	392,487
普通株式の期中平均株式数(株)	11,583,585	11,600,249
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	32円19銭	32円88銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	350,532	335,021
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当社は、平成24年7月1日付けで普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っております。また、平成24年10月1日付けで普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。これに伴い、前連結会計年度の期首に株式分割が行われたと仮定して1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額を算定しております。

2 【その他】

第12期（平成24年4月1日から平成25年3月31日まで）中間配当について、平成24年11月2日開催の取締役会において、平成24年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	34,803千円
1株当たりの金額	6円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	平成24年12月6日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月12日

株式会社デジタルハーツ
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 平 井 清 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 佐久間 清光 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社デジタルハーツの平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社デジタルハーツ及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。